

平成31年 1月25日
独立行政法人大学入試センター

平成31年度大学入試センター試験（本試験）公民「倫理」の正解の訂正について

1月19日に実施した平成31年度大学入試センター試験（本試験）公民「倫理」の第1問問6の正解については、②と発表しましたが、①も正解とすることに訂正します。

（訂正理由）

本問は4つの選択肢の中から適当でない選択肢を一つ選択する問題である。選択肢①の「大家族（拡大家族）が一般的な家族形態であった。」という箇所について、高度経済成長期以前において、大家族（拡大家族）という家族形態は一般的であるという趣旨で正文としていたが、構成比率でみた場合、高度経済成長期以前でも核家族の割合が最も高いことから、核家族の方がより一般的であるという観点からみれば、適当でない選択肢となるため、選択肢①も追加で正解とした。

倫 理 (100点満点)

問題番号 (配点)	設問	解答番号	正解	配点	問題番号 (配点)	設問	解答番号	正解	配点
第1問 (28)	1	1	3	3	第3問 (24)	1	20	5	3
	2	2	4	3		2	21	3	3
	3	3	2	3		3	22	2	2
	4	4	1	2		4	23	4	2
	5	5	1	2		5	24	1	3
	6	6	1又は2	3		6	25	2	3
	7	7	4	3		7	26	4	2
	8	8	2	3		8	27	1	3
	9	9	3	3		9	28	3	3
	10	10	3	3					
第2問 (24)	1	11	2	3	第4問 (24)	1	29	2	3
	2	12	4	3		2	30	4	3
	3	13	2	2		3	31	6	3
	4	14	1	3		4	32	2	3
	5	15	3	3		5	33	4	3
	6	16	1	3		6	34	4	3
	7	17	3	2		7	35	1	3
	8	18	4	2		8	36	1	3
	9	19	4	3					

(注) 第1問問6については、1又は2を正解とする。

【理由】

本問は誤文を選択させる問題であり、誤文として設定した選択肢②が正解である。しかし、選択肢①も家族形態の構成比率でみた場合、適当でない選択肢となり得るため、これも正解とした。

問 6 下線部①に関して，近代以降の日本における家族や結婚のあり方についての記述として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

6

- ① 高度経済成長期以前の日本では，親子だけでなく，祖父母や親族と一緒に暮らす大家族(大家族)が一般的な家族形態であった。
- ② 高度経済成長期以降の日本では，核家族が主要な家族形態として定着し，全世帯に占める核家族の割合は増加の一途をたどってきた。
- ③ 現在の日本では，事実婚(非法律婚)による夫婦や子をもたない共働き夫婦など，夫婦の形態が多様化する一方，結婚しない人も増えている。
- ④ 現在の日本で，学業を終えて就職した後も結婚せず，親に依存して同居を続ける人々は，パラサイト・シングルと呼ばれている。